



## 環境の経済評価とは何か

- 環境面での変化が、どのくらい国民の幸福（福利）に影響するのかを可視化するもの。
- 「**経済効果**」とはどう違うのか？
  - 実際のGDPに与える影響を測るのが**経済効果**
- 例：近くの川の水質が劇的に良くなった
  - 水遊びや釣りができるようになった→**経済評価**
  - ボート屋ができて繁盛し、地域にお金が落ちた→**経済効果**

## 環境の経済評価の政策的重要性

- 金銭評価することで、さまざまな政策を一つの次元で評価するのが可能になる。限られた予算の中で、政策評価に用いられる。
  - 多様な政策の優先順位付け
  - 既存の政策の意義づけ
- 森林整備、図書館、保育園、道路、医療費補助、堤防・・・
  - このままでは比較することが難しい

3

## どのように使うか

- **平均的な人が受ける便益×関連する人口＝総便益**
- 費用に比してどれだけの総便益が発生したか？
  - 総便益÷費用>1
  - 事業のタイプで異なる。
    - 高いもので5程度
- 効果的な政策か判断

4



実施した経済評価(2022=R4):CVMによる  
( 経済評価有識者検討委員会 )

- 15年間継続して森林・河川等を整備したことの効果についての情報を説明し、その効果を今後も持続させるために、毎年いくらまで支払う意思があるかを問うた。
- 一世帯当たり11,568円/年→272億円/年
- 水源環境保全税は年間約40億円
- **便益/費用=6.8**
- 十分に高い効果

5

## 補足

- 水源環境の整備は神奈川県「施策大綱事業」からも費用が一部投入されている。
- したがって、「費用」として水源環境保全税のみを計上することは、計算する費用を過小にする。
- 一方、「施策大綱事業」の予算(=約140億)をすべてあわせて計上し、費用を180億にすることは、実際の費用をかなり過大にする。
- 現実の費用は、40億～180億のどこか。
- 過大であることを承知の上で、費用を180億として計算すると、**便益/費用=272億/180億=1.51**→十分な効果があると認められる。

**1.51<<実際の便益/費用<<6.8**